

牛群検定通信 No72

～平均搾乳日数の活用～

これまでも何度か「平均搾乳日数」を紹介しました。今回は概念的な紹介よりも、実例を使って改善点を見いだす活用法を紹介します。平均搾乳日数とは、現在搾乳している検定牛の分娩後日数（搾乳日数）を平均したものです。極めてシンプルな数値ではありますが、その活用方法は奥深く、牛群検定の重要な概念のひとつです。

1 平均搾乳日数はどこに記載されているか？

- ・成績表の右上に様式AまたはBと印字されている場合
 - 1) 1枚目の牛群成績の中段やや左よりに、牛群全体の平均搾乳日数が、13カ月の推移で表示。
 - 2) 2枚目の個体検定日成績
最後のページに産次別の平均搾乳日数が表示。
- ・成績表の右上に様式Cと印字されている場合
1枚目の成績表の最上段の中程に、牛群全体の平均搾乳日数が表示。

2 理想的な平均搾乳日数の事例

平均搾乳日数は繁殖成績です。繁殖成績が良好な検定農家では160日程度となります。また、年間を通して、産次にかかわらず160日前後をキープ出来れば理想的です。

3 良くない平均搾乳日数の事例

A) 平均搾乳日数が200日を越えている

搾乳日数の平均が200日以上ということは、搾乳牛の半分以上の頭数が搾乳日数200日以上の泌乳後期になっているということ。泌乳ピークを過ぎた牛ばかりでは、1日に搾って出荷できる乳量はあまり期待できません。搾乳頭数ばかり多い労働効率の悪い牛群です。

B) 平均搾乳日数が年間を通して安定しない（良い季節と悪い季節がある）
繁殖に季節的なムラがあります。ムラの原因は夏季の繁殖成績が悪く、秋や冬になってから、まとまって受胎することにあります。本来、夏季（8月ごろ）に受胎すれば、翌年6月ごろに分娩し、8月が泌乳ピークになります。牛乳の足りない夏季に有利な乳価を得ることもできます。しかし、繁殖にムラがある農家は、8月は乾乳牛ばかりで出荷乳量が最も少ない時期になってしまっていることが多いようです。

C) 初産の平均搾乳日数が200日を越えている

本来は初産牛の繁殖成績が最も良く、平均搾乳日数も初産牛が最も良好にならなければなりません。しかし、初産牛は体も小さいことからイジメられ飼料を食い込めずに発育不良となっていることが考えられます。

※A～Cのいずれの場合も、繁殖成績の改善が必要です。